

新 刊 月 輯

# 道 類 探

昭和二十三年十月十五日第三種郵便物認可  
昭和二十三年十月一日印刷（每月一回）  
昭和二十三年十月十五日發行（十五日發行）

第百四十三號



爽 涼 號

開場七周年記念

東西合同大歌舞伎

十月五日初日

毎日午後一時開幕  
初日・二日目に限り正午開幕  
◇初日に限り各等半額◇

十三日午前  
開始

前賣團體  
專用電話  
(戎)二八二六一二八二八

御觀劇料

櫻	七十錢
菊	九十錢
三等	一圓五十錢
二等	二圓
一等	四圓五十錢

外に入場税一割

これこそ非常時局下の演劇  
國民精神をくり展げたる大繪卷!!  
通し狂言  
假名手本忠臣藏

廿場

全機能をあげた大舞臺未曾有の大道具!!

◇ 割 場 ◇

第 第 第 第 第 第 第 第  
二 十 九 八 七 六 五 四 三 二 一

鶴ヶ岡の饗應  
門外意趣  
戀歌の花聲  
扇ヶ谷の名残  
末世の忠臣  
街道の濡れ羽  
恩愛の二ツ玉  
思ふの連続  
財布の練言  
血氣の練言

第 第 第 第 第 第 第 第  
十 三 十 四 五 六 七 八 九

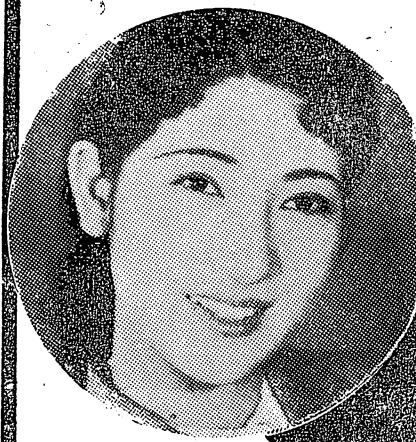
大盡の鑄入  
旅路の嫁刀  
文樂座三味線特別出演  
四科の雪ころがし  
兜頭巾の星合せ  
恩義の合言葉  
月夜紅雪  
忠臣の鬱憤  
財布の焼香  
本望の引揚

大阪歌舞伎座

松本市	松本市	松本市	松本市	松本市	松本市	實市	實市	淺市	實市	中片	林實中	中市	實中市	中市	中市	中市	中市	中市	中市	
本	本	本	本	本	本	川	川	川	尾川	川村	岡川	村	東川	岡川	上村	本村	川村	川村	川村	
幸	錦	大	染	高	三	染	延	延	段	奧	美	九	福	我	敏	延	扇	魁	壽	
四	四	麗	四	五	五	四	四	四	五	五	五	五	三	三	三	三	三	三	三	三
郎	郎	七	升	雀	郎	郎	郎	郎	郎	若	女	猿	山	雁	次	郎	助	夫	郎	雀

# ニキビ

吹出物にゼビ!



ニキビにゼビ

## 美顔水

▲ニキビ吹出物に非常によく効くので大評判の薬です。ニキビ吹出物の方にゼビ御勧めしたい薬!

蚤、蚊、南京虫等の毒虫でカユイ時

蚤、蚊、南京虫、家ダニ其の他毒虫でカユイ時にお用ひになりますも大へんよろしいので、この薬を御家庭に一瓶お備へになればとても重寶です。

▲美容薬としても

入浴後や洗面後等にお用ひになれば常に爽快でニキビ吹出物を防ぎ、お顔がとて美しくなります。



目次

道頓堀 通巻第四百十三號

口佐渡の灯

中村吉右衛門 (13)

歌舞伎存亡の問題

山崎紫紅 (2)  
高安吸 (4)  
高谷伸江 (6)  
坂本猿冠者 (8)

口こり汁

中村七三郎 (24)

はがき隨筆集

(14)

藤娘について

坂東鶴之助

時代ご共に

中村扇雀

東京生れの大坂育ち

中村成太郎

夏の大阪

片岡我當

出でよ好脚本

守田勘彌

御挨拶

澤村訥舛

かたみのお里

中村福助

私は恐れる

秋月正夫

出征

辰巳柳太郎

この秋

長嶋丸子

青年歌舞伎に望む

氣駕君子 (18)



東劇の青年歌舞伎

笹谷蘇水 (19)

劇壇時評

西尾福三郎 (10)

□六代目秘話

藤原羊平 (26)

地方

句行脚 九州の大歌舞伎

中村七三郎 北村九泉子 (28)

通信

澄子と良太郎 淡海君

比古 M 生 (28)

□立廻と剣道

南町 淑人 (21)

涼み臺

(其の二)

東竹舍人 (23)

東京土産

志賀廼家 淡海 (30)

角座舞臺稽古の夕

黙鐘子 (33)

九月 道頓堀

上演の三新作

一記者 (35)

懸賞課題・次號豫告

懸賞應募用紙

編輯後記

(38) (39) (40)

□繪

南座の曾我ま重ノ井 (お里) 船屋、刈豆、玄治店、勤皇の家 栗嶋の卯女 新國劇の「土に叫ぶ」

歌舞伎の女(藤娘、お富、かさね) 通辯お春、秋月さお藤ノ方

表紙.....六代目菊五郎の汐くみ

扉.....獨白

酒 銘

白 雲 シラユキ

榎津伊丹灘  
小西酒造株式会社

『夜討曾我』の假屋問答

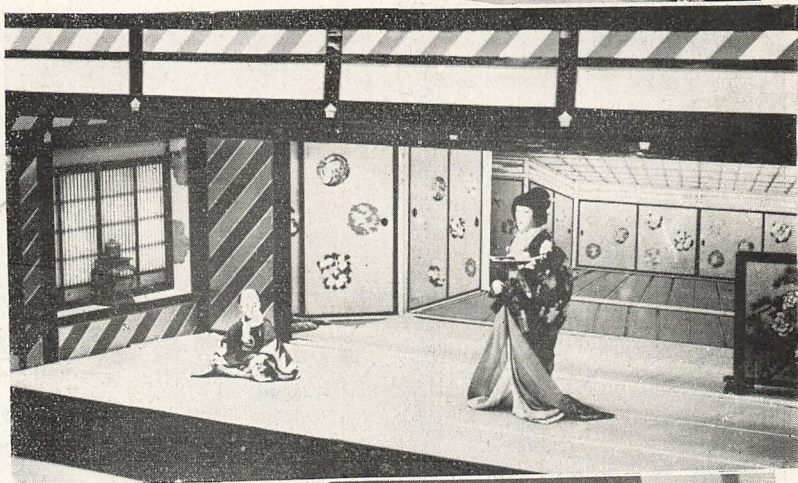


梅玉の頼朝

菊五郎の五郎  
男女藏の五郎丸

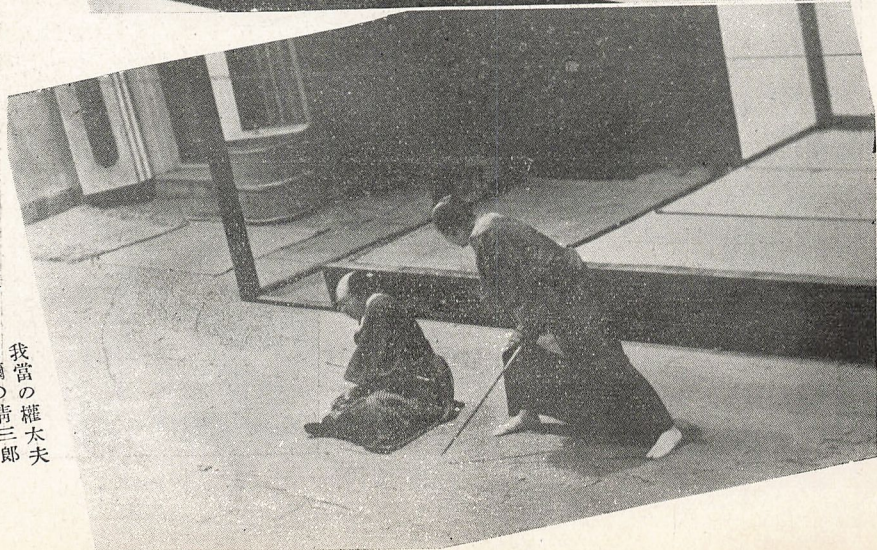
『戀女房染分手綱』の由留木箱

梅玉の重ノ井  
男女丸の三吉



『勤王の家』

我當の權大夫  
勘彌の清三郎



歌 舞 伎 の 女



福助のかさね

鶴之助の藤娘



福助のお里



訥おの富





の助福  
ねさか

の彌勘  
門衛右與



屋貳の"櫻本千經義"(1)

(山奥)ねよお母(助之鶴)盛維(りよ右)  
(郎三竹)門衛左彌(雀扇)太権(助福)里お

堤川下木の"豆刈間彩色"(2)

店治女の"櫛横名浮情話與"(3)  
(彌勘)郎三與(當我)安蝠蝠(舛訥)富お

光木權の當我

光忠山中の雀扇

“峠り降雨”  
(座角)

成太郎の通辯お春

郎次大月秋の郎三吉

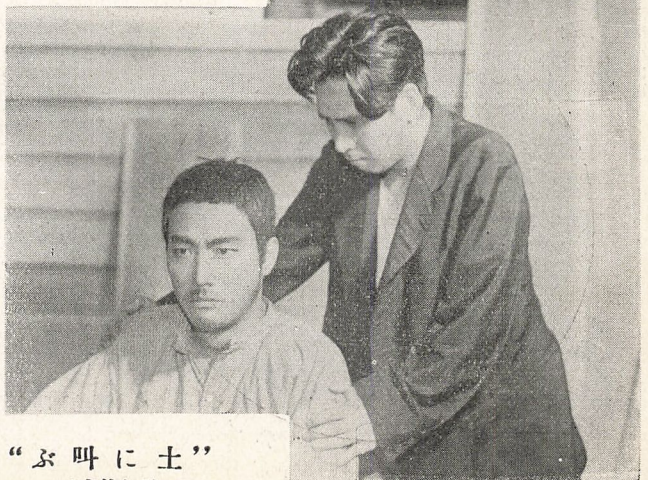


方の藤おの子蓮瀧

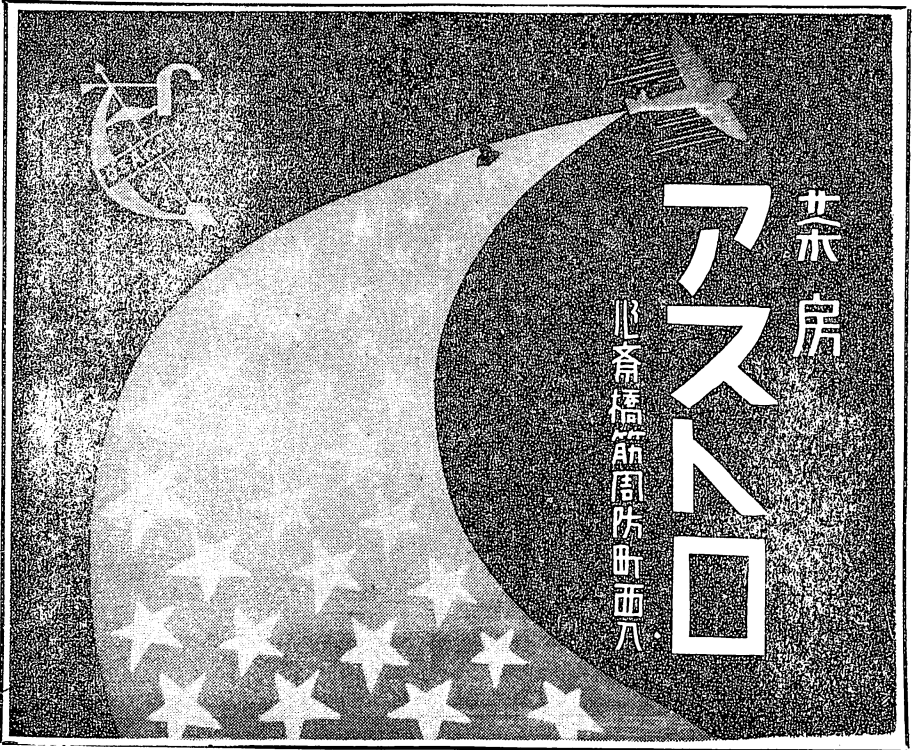
“記日庭家”

女卯の子みす嶋栗  
(座角)

郎次眞田牧の田島  
三健田山の己辰



“ぶ叫に土”  
(座伎舞歌)



茶房

アストロ

北斎橋筋園防町西八

佛蘭西料理

大<sup>ダイ</sup>

籠<sup>カ</sup>

有延堂包母七

(重三三三六五)

證券金融



株式會社

日本信託銀行

本店 大阪市東區今橋二丁目

支店 東京市日本橋區南茅場町

有價證券賣買

大阪市東區京橋三丁目七五

株式會社

大

林

組

支店

東京、橫濱、名古屋、福岡、大連

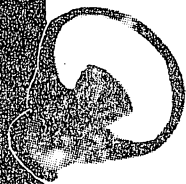
營業所

京都、神戸、金澤、静岡、廣島

仙臺、京城、臺北、新京、奉天

工作所

大阪、東京



ダイヤ時計ヒスイ  
貴金屬金・白金漬

高價買入  
交換モ致  
シマス

南区千石三丁目新相之橋北用

電南 六六六



京美堂

東区北浜二丁目百文番号

電北浜二三四四

賣リ良イ

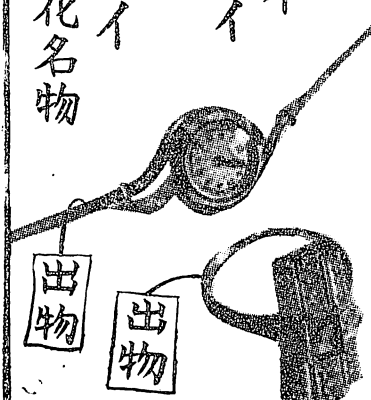
買イ良イ

品ノ良イ

出物デ

名高イ

浪花名物



ンロチモは庭家

慰問袋

にひぜ

粉反蟻

を士勇軍皇

虱・虫京南・蠅

うせまひ救らか

スセロブ  
作製板看術美

るゆらあ  
告廣傳宣

社事商告廣

造勝中田

前日千阪大

番〇九七三次電  
ルクナミ

刊近

道頓堀  
臨時號

忠臣藏グラフィ

皇軍將士慰問ノタメ

「忠臣藏グラフィ」ヲ近日發行致  
シマス

大阪歌舞伎座十月狂言トシテ上  
演ノ『假名手本忠臣藏』舞臺寫  
眞及ビ「忠臣藏」ヲ題材トシテ  
出演俳優ガ競技的ニ撮影シタ中  
カラノ優秀ナ寫眞等ヲ主トシ、  
解説ヲ附ケマス  
御愛讀願ヒマス

『道頓堀』

編輯部

# 金鶏印罐詰 二大製品

1. 純良精選の牛肉

で御座います

1. 不意の御來客に

1. 御酒ビールの御友に

1. キャンピングに

1. ハイキングに

1. 各地百貨店

著名食料品店

に販賣致して居ります

1. キンケイ印を御指定下さい



洋酒・食料品・罐詰問屋  
 大阪市東區豊後町三番地  
 株式會社 横山商店



藝雅・究研劇壇・刊内

# 道頓堀

森 の ほ の 監 修

第三十三年九月十號

獨 白

「道頓堀」は大阪劇壇のシヨウ・ウキンドウだ

これによつて皆さんの多くに接する

皆さんの多くと心の中に握手する

劇壇のために無くてはならぬ

シヨウ・ウキンドウ「道頓堀」

皆さんの——オトモグチ「道頓堀」

さういふ役目をどうか完全に

果すことの出来ますやうに——



# 歌舞伎存亡の問題

その一 山崎紫紅

時局のせいでもあらうし、毎年お定まりの暑中休業の影響もあらう。そんなに驚くほどのこともないが、近年歌舞伎衰頹の聲がして、滅亡論まで出ると云ふのは、その由來無きにもあらず。第一に役者の足りないこと、云ひ更へれば錦繪になりさうな人に乏しい。歌右衛門、羽左衛門、幸四郎……と數へて見ると外にあと幾人がある。菊、左、吉等の人は、何と云つても前記の人々よりか錦繪味に乏しい。今日の芝居を見て、歌舞伎臭味の不足を感じるのにはまづそれが第一番だ。

舞臺が寫實臭くなつて來たのは、明治以前の名人小團次あたりから、歌舞伎芝居の中へ漂つて來た寫實主義の影響で、あの當時でさへ、現實と舞臺との隔りがあつた。これが五代目菊五郎となると、時世の變遷で一層激しくなり、傳來の歌舞伎式が

變じて來た。この方は世話物だからまだしもだが、時代物の方さへ九代目團十郎の活歴といふ寫實主義が浸入して、終に純歌舞伎といふものゝ面影は、時代遅れのやうになり、第二流の芝居へと追込まれてしまつた。

それでも追がの兩名人は、其後にいたりて、手を組合つて明治末年の頃には、國寶物とも云ふべき歌舞伎芝居を續げざまに上演して我々後生にその範を示してくれた。五代目菊五郎の世話物については、外に云ふべき事もあるが、こゝには略して置く。

見やうに依りては、團菊末期の歌舞伎芝居は、その眞正の價値を世に示して、後年のものに歌舞伎芝居とは、こんなものといふ定義を並べて見せたものと云へる。

一盛一衰は世の常で、この頂點に達した歌舞伎芝居は、兩名人の死後頓挫の傾向を見たが、歌右衛門、中車、羽左衛門、幸四郎等の努力で、回復の幸運に向ひ、續いて左團次、菊五郎、吉右衛門等の力で、やゝ衰運を取戻したのが、近來たも不振の聲が大きくなつたのは、決して單に支那事變のみに責任は負はせ切れない。時の廻り合せといふこともある。前進座の新宿浸出や、新協劇團の東劇襲撃などに驚くには及ばない。團菊時代の川上晋次郎の東京浸入などは、今日から考へたら驚天動地の大事件であつた。

藝は名人さへ出れば生きる。今日に於ても團菊以上の役者が四五人も出たら、そんな詮議は時代遅れになることゝ私は安心してゐるが、まアそんなことの詮議もまたにして、歌舞伎劇が衰頹、いや滅亡したら、今日の芝居に依つての生活者はどうなる。

歌舞伎に關係の人達の多勢は俳優だが、これは致し方があるまい。尤もこのうち踊りのできる人は、その教授によりてお師匠さんとして生活が支へられる。踊りのない人の方は、歌舞伎術指南所の看板を出した所が、弟子入をするものはなからう。大道具の面々も、三十分で大厦高樓を組立てる腕はあつても、

六疊に三疊の棟割長屋、その粗末な建築さへ、お齒違ひで不向きであらう。小道具の人達にも同じ様の苦勞もあらうし、衣裳方の鋭い腕も、素人相手の仕事では鶏を割く牛の力だ。山臺に並ぶ大夫さんや、三味線引あたりが、失禮ながら漬ぶしの利く方、この外は先づ表て方の、所謂社員さんの手合は、他處の會社や、映畫専門の半同業の方へでも轉業するか、十把一絡げ、まア外のものの方は付くにおいて、肝腎の役者だけは考へてあげないと困る。

かつて文樂座の衰運時代に、我々は文樂座の人形淨瑠璃の擁護會を造つたことがある。その時に私はこんな發言をした。この尊重すべき藝術は絶滅に歸すとは思はれない。悲觀して見ても能樂のやうには残らうが、さて彼れには、謡曲を習ふ人、仕舞、囃子の稽古をする人、飄逸な狂言の方でも、少しは素人のお弟子ができる。人形芝居の方でも、太夫や三味線引の方にはそんな手合の後援者は得られ、粥位は食べて行かれるだらうが人形遣ひの方はどうなる。素人の弟子が取れるか。四國あたりには素人の同好者があるとは聞いたが、文樂一座の將來を背負つて行くほどの決意をもつ後援者が、果して得られやうか。我徒の心を入れるのは此點だ。先づ人形遣ひの保全を考へなくて

はなるまい。

居合せた小山内薫君が直ちに賛成する。一座これに同じて、先づその志を表して、集まつた所の微少の幫助も、その一團に呈上したことがあつた。歌舞伎の方は百人が百人失業はせまいが、その大半は失業の憂き目にあふ。私はこの場合には、これ等の人々の身上を第一に考へなくてはなるまい。しかし、そんな

## その二

高 安 吸 江

歐洲大戦の際、一番困つたのは畫家と俳優だつたさうで、獨逸などは政府で保護して、成べく見物に行くやう一般を勧誘したといふ話も聞いてゐます。

かうした藝術家等は所謂ボヘミア仲間で、普通の習慣に捉はれず、不規則で放縱な生活を送つて居ることが多いから、世界戦争のやうな非常時になると随分始末が悪い。

そこへ來ると我日本の役者達は多少趣を異にしてゐるから、歐洲のそれ等程のことはありませんまい。唯彼等は平素あまりに外界と接觸することが少く、時代の真相を理解する點に於て頗

なことはあるまい。

少數の高等階級者の特有物の觀がする能樂も亡びない。それに比して大衆の歸依者のある歌舞伎は決して亡びはせぬ。觀客の多少は時代の推移に連れる現象だ。心配することはない。

(昭和 一三・八)

る頼り無い憾が多い。今迄御乳母日傘で育つた子供が、突然その保護者を亡くした時のやうに、少し極端に云へば茫然自失と云つた状態にあるやうです。

斷るまでもなく、此れは歌舞伎俳優について云てゐるのです。が、實際關西歌舞伎の近況を見て其將來を思ふと、誰しも膚に粟を生じないものではありませんまい。私は是までから、それは滅亡でなく、黎明期に入つたと解すべきである事を力説し、特に若手俳優の時代認識と、苦闘の決心を切望してやまなかつたのでしたが、昨今では舊に關西のみならず、日本の歌舞伎そのも

のが危急存亡の秋にたち到了た、イヤ將に瀕死の状にあるときへ云ふ向きがあつて、兎に角心細い状態となつて來ました。

一々具體的な例を云ふ餘裕もないから差控へますが、或意味に於ては滅亡といふ語があてはまるかも知れず、しかしまた、それが轉換期であり、黎明期であるとも考へ得ると私は信じます。それには先づ今日の所謂歌舞伎とは何か、といふ事を考へて見ねばなりません。

歌舞伎劇が大體に於て新派劇に對する舊劇をさすのは今日一般の常識となつてゐますが、舊劇の中で重きをなす竹本劇などは古來義太夫狂言と稱せられたもので、純正歌舞伎とは云ひ難い。

それで嚴格な意味での歌舞伎なるものは、大體に於て發生期の阿國歌舞伎以來傳統的なものでなければならず、即ち桃山期の豪華な所謂カブキ、即ち尖端的な異風俗を眞似た阿國の踊の風を傳へた寛濶な六法、例へば「鞘當」に見るやうなものが、それであると學者達は説いてをられます。

しかし、此類の狂言が今日何程残つて居るでしやうか。又それ等が歌舞伎として一般から承け容れられるのは頗る問題と思はれる位に、今日の歌舞伎は變形してをります。と云ふのは、

元來歌舞伎は流動性を有つてゐまして、其對象とする一般民衆の嗜好によつて左右せられ、其變化に順應すると共に、一方では絶えず新興の諸演藝を吸收、消化しつゝ己が領域を擴げ、次第々々に進化發展して來たのは疑ふべくもありません。

處が明治以來は一般文物の進化があまりに急激であつたためでもあり、又別に新派劇などが擡頭した結果、歌舞伎は多少時代に取殘された形となり、其の上代表的の名優、例へば團十郎（九代目）とか菊五郎（五代目）、少しおかれて鴈治郎などが輩出して、其標本的な演技により、恰度能樂の様に全く固定した、動かすことの出来ないものゝ如き感を深からしめたのです。

そこで此等の大分が亡くなつて見ると、其後繼者を訓育するにはあまりに騒々しい時代となつてをるし、お負けに此時局です。此れでは舊歌舞伎の存在に對して悲觀說の出るのも尤千萬であります。私が前に、滅亡とも言ひ得ると云つたのは此意味です。

然しまた同じく前に云たやうに、三百餘年間常に變轉して來た歌舞伎です。イヤ現に今日或一部から決定的とされてゐる型物すら、私共の幼時から比べて甚しい變り方であり、且又興行時間その他諸種の原因から、決して永久不變であり得ません。

唯古來歌舞伎の通有性として其名が示す如く歌、舞、伎（始めは伎）即ち音楽と舞踊とそれに技巧の三要素が一ツの劇として渾然と融け合せてゐます。竹本劇や舞踊劇はもとよりですが默阿彌ものなどにしても、時に義太夫その他の淨るりを用的、又得意の各臺辭は七五調の韻文式ですし、その他下座のお囃子なるものが亦重要な役目を勤めてゐました。

幾世紀間、吾が國民に親まれ喜ばれた此様式は、恐らく今後とても決して捨てられる筈はない。唯其れを形成する分子が其時代の嗜好に合致するやが問題でせう。それの場合によれば日

### その三

敢ていふ、歌舞伎は滅びない。と——

これには幼時から歌舞伎のよさに親しんできたわたしたちの滅ぼしたくないといふ希望が、どこかに潜んでゐるのも事實ではあるが、廣義に解した歌舞伎といふものは日本民族の存在する限り亡びないと思ふ。

たゞその形式なり内容なりが時代によつて變化することは否

本的に改善されたレビューから新時代の阿國が飛出して復興期の新阿國歌舞伎が出現するかも知れず、或はまた新世紀の藤十郎が新しい近松と握手して新上方歌舞伎を發生させるかも知れない。

現今は即ちその轉換期であり、黎明期であつて、さうした劃期的變化の機運を造るべく惡戰苦闘を續けることが、今日の青年歌舞伎俳優諸氏の貴重な、そして尊敬すべき使命であると私は信ずるのであります。

### 高 谷 伸

めない。狹義に解釋して現在行はれてゐる演目のみを中心にして歌舞伎を考へる時は、或は滅亡に近い現象を示すかもしれない。しかし、それは末節の問題である。

歌舞伎といふ名稱は三百年來變らないが、その形式や内容はいつも時代と共に動きつゝある。お國歌舞伎も元祿歌舞伎も化政度の芝居も義太夫系の芝居もみんな歌舞伎ではあるが、形式

も内容も同じではない。

近松の世話浄瑠璃を歌舞伎畑に遷した當時は明らかに現代的であり、默阿彌のザンギリ芝居は確かに明治初期の現代劇であつたに相違ないが、今では立派に古典的價值を持ち、その演出技法から見ても疑ひもない歌舞伎の一分野を擔ふものである。

逆に明治・大正期に創作された史劇を見ても、書卸し當時は非歌舞伎的なもの部に入れられてゐた作品であつても、古典化すると共に知らず知らず歌舞伎的な印象を與へるやうになつてしまつた。例へば逍遙博士の史劇や岡本綺堂氏の初期作品である。孤城落月や桐一葉が歌舞伎的であること、修禪寺物語や番町皿屋敷が歌舞伎的であることが、現在では一般の通念になつてゐる。鳥邊山心中や浪華の春雨はすつかりお芝居であることは動かせない。

これらの點から考へると綺堂氏の現在の作品も長谷川仲氏の作品、眞山青果氏の作品も歴史のふるひにかけられた時、將來の評論家によつて歌舞伎的なものと折紙をつけられるかもしれない。かく考へた時、歌舞伎の生命は無限であるといひ得る。

然らば現在行はれてゐる歌舞伎の中で、どんなものが比較的長い生命を保ち得るかといふと、それは強ち藝術的價值のみに

よつて決定され得ない。それを演じ活かす俳優の有無が第一、その他周囲の社會情勢に影響されることがかなり多い。一例を挙げると興行時間の變化である。世態の忙しさから時間の制限が法令化するに至つて、いよいよ長時間の興行が不可能になつて、一番に槍玉に上つたのは義太夫物である。義太夫全五段の上演時間はあまりに長いため、明治中期以來次第に影をひそめそれ以外の通し狂言にも及ぼした。またその中の四の切、三の切の類を上演するにも、長きは一幕二時間に近い時間を要するため、次第にぶつ切り上演になつて行つた。ぶつ切り上演の結果は、だんだん豫備知識のない觀客に芝居の筋をわからないものとし、ひいて面白くない、の聲を大きくして行つたものである。この種のものはぶつ切りにすべきでなく、歌舞伎の演出法と根本精神を把握した上で整理するべきである。義太夫物の延命策はその眞髓を捉へての再脚色以外に無い。

それと同じ意味に於て、一幕物にまとまり易い勸進帳とか鳴神とか、上方狂言では鴈のたよるといふ類は壽命が長いといふことができる。舞踊物もその點時間制限禍を享けることができる。舞踊の屏のやうな一幕二時間近いものもあれば、五變化七變化の類も全部では長いので、その中の一つが小品として獨

立して出るにすぎない。變化物の中から一種を抽出することは對照の妙がなくなり、興味を減じ、箇々の踊として觀賞するに過ぎず、道行ものなども前後の筋を忘れて筋のない踊として見ることになり、長唄ものは比較的そのまま受け入れられるとしても、豊後系のもものは再出發した方が得な場合が多い。

## その四

## 坂本猿冠者

歌舞伎存亡の問題と青年歌舞伎の將來、この二つが目下劇界の問題となつてゐる。歌舞伎存亡の問題は昨今唱へ出された問題でなく、實は團菊在世時代から幾度も繰返へされた問題で、而も未だに解決のついてゐない問題だ。併し解決へ對つて歩を向けてゐることは認められる。一つ處に決して停滞はしてゐない。たゞ面白いのは歌舞伎の問題が起つた時には必ず名優が存在して居る。名優のない團栗の背並らべ時代に歌舞伎の存亡は唱へられない。

然らば現今の名優は誰だと聞く人があつたら、私は誰と誰と名を擧げる事を避ける。名優と云はれる人は誰の胸にも思ひ當

結果、今までの歌舞伎脚本は思想の變遷、取締の推移等もあり、いろいろの點で再吟味されねばならないが、歌舞伎系俳優演出、脚本はいろいろ變化はあるにしても、根本に於てわれわれの生活が減びない限り存続し得るものといふことを信ずるものである。

人があるに違ひないから。今更名を擧げる必要を認めない。この名優が存在する以上、殘念乍ら歌舞伎は滅亡しない。形に於て質に於て多少の變化はするかもしれない。併し歌舞伎そのもの、本質は永久に残つてゆくと確信する。同時に近松、出雲、大南北、默阿彌と其時代々々の名作者が生れたやうに、現代にも立派な名作者が名優と同様に健在してゐる事を疑はない私は、支那の如くもろく解體しないと思つてゐる。

新劇の隆盛になるのは、いつも歌舞伎存亡の唱へられる時期に限つてゐるのも理の當然とは云へ、面白い現象と思ふ。

歌舞伎存亡を唱へる人は、今の青年俳優の將來と云ふ事を追



及してゆく。今の青年俳優と云へば、東京では我當、勘彌、段四郎、訥升等、大阪では扇雀成太郎等を指すのだらうが、各優共、それ〴〵特異の藝あり、柄を持つてゐるのだから勉強次第で將來の劇壇を背負つて立てる事は大丈夫だと思ふが、菊吉が青年俳優であつた時代と比較して、どうも活氣の薄い事が將來を氣遣はれると云つた人がある。

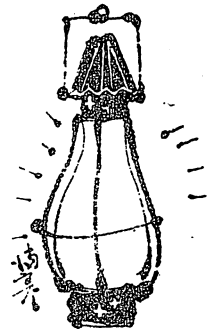
活氣の薄い事は争はれない事實だと思ふ。活氣があれば青年歌舞伎はかうまで好劇家から心配されませんだったのであるまいか。相撲、野球に限らず、何んにでも對立する選手が現れた時が活氣立ち、隆盛時代が生れて來る。古くは相撲界で梅ヶ谷・常陸山の對立の時が一番華やかであつた。野球では伊達・宮武の對立時代がファンが熱狂した最高峯であつたと思ふ。其點で今の青年俳優の連中には菊・吉の如く伊達・宮武の如く火の出るやうな聲援がない對立がない。これが活氣のない原因の一つではないかしら。傳統的からゆけば我當、扇雀の對立は仁左

衛門、鴈治郎の對立以來宿命的である譯だが、觀衆が少しも躍らないのは、これは當人同士の性質が亡父達のやうに競争的意識がなく、圓滿で如才ないためかもしれないが、興行師が逆手を使用して此兩優なぞを意識的に競争心を煽り立て同時に觀衆やひるきに迄笛を吹き立て、躍らせる事が、手段としては怪しからぬ事かもしれないが、將來藝の上にも歌舞伎劇のためにも一つの發奮劑になつて、いゝ結果を生んでくれるやうな氣がしてならない。菊吉が知らず識らずの間研ぎ合つた競争心は、今日の菊吉が存在したのではあるまいか。

愚にもつかない事を考へると、それから〴〵と横道へそれてゆく。昔の人はうまい事を云つた。

馬鹿の考へ休むに似たり

と、馬鹿でない私は、くだらない世迷言は云はない方が惻口になるからやめる——。



## 劇壇時評

西尾福三郎

⊗

六月の東京劇場で満員続きの好成績を見せた家庭劇は歸來京阪に凱旋興行と銘打つて續演してゐるが、九月又もや東上した。家庭劇の味が五郎劇のそれよりもより以上東京向きである事は誰しも認める所で、尠くとも年に二度乃至三度位上京する事は劇團の爲にも亦こちらの見物を倦きさせない爲にも必要な事である。然し物珍らしい間は茂林寺文福や館直志その他内輪の人達の作品ばかり並べておいても客足は續くだらうが、それでは將來性が無い。東京で客を呼ばうと思つたら結局は作品第一主義で行かなければなら

ない。今日笑王と自稱する古川ロッパが、あんな軽い作品許り並べ乍ら怖るべき人氣を占めてゐる原因の一つも、確かにこの作品第一主義によるのである。尤もロッパのそれは嚴密な作品第一主義ではなく、作品のレッテルバリウ第一主義であるらしいが……ともかくも家庭劇のレパートリーに菊池寛や久米正雄の作品を加へる時代が來らんとしてゐる。自作自演は既に過渡期の現象として惜しみ無く捨て去るがよい。この事は既に文福の十吾君も主事の山上君も考へて居るらしい。

ふ事。さうなると既成作家の物の中に適當な作が割合に尠い。これが又家庭劇の惱みらしい。

家庭劇に敢へて進める。勇敢に無名作家の作品を第一番目に取上げよ。一篇や二篇で無しに氣永にくり返す事によつてそれら新進作者の嗣出作品に將來を期待するのも無意味ではあるまい。

それと共に稀には鬻物喜劇を演目中に入れて目先を變へる事も考へて欲しい。

⊗

最近新劇の観客層が目醒しい勢で増えてきた。これは新劇俳優の技倆が向上したにも因るが、それよりも作品の名で客

を吸収してゐる事實の方が多い。それは、どちらであつても私は今こゝで問題にしない。たゞ劇壇に於ける聖騎士の如き清節と情操によつて過去の我々を惹きつけてゐたそのかみの新劇俳優が、今日では地に墮ちた天使の如く箔の剝げた幻滅を感じさせるのが情無い。観客に媚びず、作品に阿らず、無論興行者なる物を持たず、一意自己の藝術的慾望によつてのみ芝居をしてゐた昔の新劇がなつかしい。例の赤き伯爵土方與志が傲慢な態度で兩手を匿しに突込んだまゝ高い處に突立つて観客に挨拶した事が度々あつたが、あゝした尊大な様子が當時の新劇そのものゝゼスチュアであつて、むしろ腐敗墮落した劇界の解毒劑として新劇人のさうした一舉手一投足が何等の反感もなく、却つて拍手をもつて迎へられてゐたものだった。其處に當時の新劇のフレツシユな

存在理由が大いにあつた譯である。然るに今は何うであらう。成程藝は上手になつた。然し幾ら上達しても既成俳優の巧さには及ばない。いや既成俳優の巧さは巧さが違ふのが本當かも知れない。宣傳もサーヴィスも仲々隅におけない。要するに如才がなく世渡り上手になつて、舞臺の熱がそれだけ稀薄になつた。熱ではない、熱以上の信仰でなければならぬ。箆のものが、そんな敬虔な意圖は見度くても見られなくなつてしまつたではないか。新劇俳優も人間だから、先づ最初に喰ふて生きる事を考へなければならぬ。と云へばそれ迄の話であるが、生さんが爲に芝居をしてゐるのが職業俳優でさうした妥協のある芝居をする位なら死んだ方がましだと云ふのが、彼等新劇人の主張ではなかつたのか。

役者らしからぬ役者、芝居らしからぬ

芝居、いつもかも劇界の天窓を開いて新しい空氣と鮮やかな陽光を導入する役を彼等から期待してゐたが、今ではたゞの役者、たゞの芝居になつてしまつた新劇と云ふものに、私は一入感慨を催さしめられる。

今更ら乍ら、つくぐと小山内さんは偉かつたと思ふ。

#### □

青年歌舞伎が來演した。

東京では解散説まで出る騒ぎで何うなる事かと思つたが、泰山鳴動して鼠一匹出ない全くのデマと分つた。従來の青年歌舞伎の外に、御曹司達を中心とする花形歌舞伎が生れて、東京の劇界は多々益々賑やかなのに比べて、こちらの秋風落莫は何うだ。

扇雀、成太郎の二人が譏かに東京に遠征し、青年歌舞伎に伍して氣を吐いてゐる

るに止つて、他の人達は一體何をしてゐるのだ。延三郎は活動に一寸顔を出したが……。霞仙は玉水の淵で饒八を勤めた許りで御沈落か。狂藏は仁左を手頼つて東上したとか。福太郎、錦吾、みんな居る事は居るらしいが、何處で何をしてゐるのか。自分は自分、他人は他人で、いざとなつて一致しないのが利に聰い關西人の恒、殊に口先上手な芝居社會では妥協と見せかけて反撥する位はお茶の子であるから、自分達の危機切抜けに懸命で他人を構つて居れないと云ふのが現状なのではあるまいか。

六月歌舞伎座の北辰丸の舞臺で相當な所が十把一と括げに扱はれてゐるのを見て情無く思つたのは筆者だけではないらしい。こんな意氣地のない事で何うなるのだ。各自が寄り集つて手辨當でもよいから一致團結の上ひるき先や理解のある

縁故筋を辿つて、お互の生活擁護の爲に起つ氣はないのか。せめて年に二度や三度役らしい役のつく中芝居を持つだけの底力か無くては、體ては皆から忘れ去られてしまふだらう。會社に對して生活の保證を求める事も大切であらうが、それより以上に歌舞伎界と云ふ自分達の屬する社會が、今何んな風波に弄ばれてゐるかと云ふ事を考へるなら、永久の生活權を擁護する意味で、徒らに不平不満に自屈せず、相互協力の上で大いに頑張つて貰ひたいものである。

×  
 役者が巧くなる爲に持たなければならぬものは、  
 廣い一般的な理解ではなくて、自分の藝術の特別な理解である。

—— 小山内 薫 ——

御芝居用

双眼鏡各種



正 確 自 覺 眼 鏡 檢 定

喜多曲眼鏡店

大阪市戎橋通中筋南  
 電話二七二三番

御芝居ニハ是非

双眼鏡

# 佐渡の灯

— 旅中吟 —

中村吉右衛門

この邊り温泉の村やさみだるゝ  
廣告の立看板や梅雨出水  
日ざかりや宿のラデオの越後獅子

新發田にて

安兵衛の昔語りや行々子  
柏崎にて

佐渡の灯の見えるなり梅雨の宿  
たもの木のしばしとぎれて青田かな

静岡にて

打上げの日の殊の外涼しうて

は が き 隨 筆 集

(原稿到着順)

藤娘に就いて

坂東鶴之助

古風に、振附の三津之丞さんとも相談して、潮來うしろを入れて踊る事と致しました。併し幕切れの形は後に活惚いきほレが出来ますのでいつもの畫面の形でなく、新趣向を用ふる考へでをります。

時代と共に

中 村 扇 雀

今度中座の大切に「藤娘」を上演致すことになりました。少し季節向ではありませんが、舞踊のことですから其處は御許しを願つて置きます。本來今度は現代物をやりたかつたのですが、他の出し物や時間の都合上、思ひの叶はなかつたのはいかにも残念でした。

更に残念なのは六代目さんが「藤娘」を上演された時は、岡(鬼太郎)先生から藤の花はお酒が好きだといふお話を聞いて振に取入れたのですが、これは六代目さんや柏伊三郎さんの封じもので、其方々以外には許されないので。

私は舞臺装置のみ六代目さんの通りに致し、衣裳は古いものをアレンジしますが、大體に於て趣を變へないやう、振も萬事

今私はとても恥しい氣がしてなりません。時代に背中を向けてゐる様で、今してゐる事が無意味としか思はれません。どんな人ともいい、ガツチリ組んで(永久的でなくともいいから)面白い芝居、中間演劇、價値のある芝居、藝術的の芝居をやつてみたい。そして歌舞伎俳優としての本領を忘れてはならない。また映畫もやり舞臺も勤める、さういふ風にやつて行きたい。きつとさうなる時が来るでせう。當事者がさうしてくれなければ、何とか方法を考へて近い内實現したいつもりでゐます。

## 東京生れの大坂育ち

中村成太郎

## 出でよ好脚本

守田勸彌

七月、八月と又東京で働いて居ります。本年は二月、三月、四月の三ヶ月もこちらでした。九月大阪で働くことに成ると、大阪が四ヶ月のこちらが五ヶ月に成ります。東京で生れて大阪で役者にして頂いた私ですので、それにふさわしい働き振りだと我ながら思つてゐます。どちらにしても働かなくては駄目ですが、在京中のお土産となるものを何か持つて歸りたいと思つて居ます。(東京劇場樂屋にて)

## 夏の 大坂

片岡我當

九月は一年半ぶりで中座へ出勤することになりました。夏の大坂は随分久しぶりで、私は夏の大坂は好きです。

子供の時分、千日前を歩くと「玉製／＼、アイスクリーム、一ツばい五厘！」と言ふ賣聲に、とても引きつけられたものです。こんな事を言ふと年寄じみるからやめませう。

寔にこの事變は社會萬般の諸相を擧げて改新の一大轉機を促進するものであると、先き達つてさるお方から承りました。演劇界でも別有天地なごも許されぬ時勢であります。さればこそ興行者も惱み、俳優も惱んで居ります。

此時此際、劇作家各位も亦俱に惱んで頂きたいと思ひます。明治初年には祖考勸彌も惱み團菊も惱み、黙阿彌も惱みましたが、今日はその當時にもまして改新を要する時機ではありませうまいか？殊に我々後進の俳優には、久しい哉ですが、大作家出でよ、好脚本出でよと叫ばざるを得ません。僭越多謝。

御 挨拶

澤村訥升

初秋の大坂に久しぶりに参ります。非常時の今日、私達は全力を擧げて演藝報國の一端にもと舞臺を勵みます故、何卒皆々様の忌憚なき御指導を御願ひします。

故名優、先輩の方々の残された型を尊重し、なほ一層研究して「おとみ」をやらして戴きます故、開演の節は遠慮無く御注意を下さいますやう……。早く大阪の方々の御顔を見られます日を樂みにいたして居ります。(東都、兩國の宅にて)

## かたみのお里

中村福助

昭和八年の七月に東劇で、我當さんの權太、勘彌さんの彌助でお里を勤めました。今度は六年ぶりでございますが、私にとりましては誠にこのお里は思ひ出が多ございます、と申しますのが、この役は兄(先代福助)から教へてもらつた最後のものでございます、兄は病中ながら細かく教へてくれました。それから丁度一ト月経ちまして、兄は亡くなりましたのでございます。全く私への置土産でございます。

かさねの方は梅幸さんに教へて頂きました。六代目(菊五郎)さんの方は與右衛門と二人本花道から出るのでございますが、梅幸さんの型では兩花道をお使ひになります。この方が古風のやうで、今度も兩花道にして頂きました。梅幸さんも、踊とい

つても芝居の方が勝つてゐるから難しいと仰有いましたが、何にしても誠にやりばえのある得なお役でございます。

## 歌舞伎座の樂屋から――

私は恐れる

秋月正夫

持ち役を(適役不適役は別として)作者の……演出家の……考へてゐる人物のそれに近い表現の出来なかつた場合。當り役等と言はれるのは少いとしても、ミスが多い場合。又は作品のスタイルを或は役柄を無視して己れを見せんが爲に他との調和を破つた場合。共に罪は重い――それを恐れる。

出征

辰巳柳太郎

○金持の小供の出征は――とにかくお祭り騒ぎで、大新派悲劇の幕で入隊して、家族の連中も入隊した事を自分の小供一人



の様に鼻にかける——。(全部の金持ちとは云ひませんが)

○貧乏人の小供の出征は——何んでもない、軽い気持で、當然の様にしかける。家族の者も、二人の小供を出征さして鼻にもかけない人を僕は知つてゐる。

どつちの小供が國家の用にたつか知らんが、考へさせられる

。

(九月七日)



### この秋

長島丸子

秋……あき……アキ……秋の芝居！ お芝居の秋！ どんな

にか實ることをごいませう。

稲穂のやうに、この秋の好シーズンに、思ふだけ舞臺で戦へたら、一入意義深い秋でせう。

内地に冬が参りましたも、戦地にはこれ以上寒さが加はりませんやうに、皇軍勇士の皆様、今のこの秋の好季節でお務め頂きますやうに、心から祈つて居ります。

(九月十三日)

洋酒・食料品・罐詰問屋

株式会社 横山商店

創業明治五年

大阪市東區豊後町三番地

電話東94代表三八六五番

振替口座大阪二八四七番



## 青年歌舞伎に望む

氣 駕 君 子

青年歌舞伎がなんのかのと言はれた揚句、遂に解散するとまで活字に見えたので、あたら雷の花をむぎ／＼むしり取る

寂しさを覚えてゐた處、其は事實無根であつたと見え、七八の兩月は珍らしくも東劇に連続出演して相當の成績を擧げてゐると聞いてほつと胸を撫で下した。(私は病人などの爲め見物の機會を失してゐるが……)

青年若手花形歌舞伎などの名稱は、聞くから魅力のある所へ、名門子弟の勉強集團なので、箸のあげ下しにまで一層世間の目が光るし、恰かも娘盛りに人の口のうるさいと同様なのであらう。

現今は歌舞伎が劇界の大問題になつて其存亡まで、とやかく喧しい折柄、其卵である青年歌舞伎の云々されるのも止むを得ない現象であらうが、なぜ歌舞伎のみの存亡を云々するのか。其意が私には判らない。不入と言ふのが原因とすれば其は觀劇料の低下によつてほゞ解決のつく事と考へられる。

新劇、元より結構であるが、物は新しいばかりが能ではない。新劇でも何等の力のない面白さのないものは直ちに滅亡してゐるではないか。元來歌舞伎は阿國歌舞伎の念佛踊等が、其儘今日に引續いてゐる譯でもなければ、其間數多の名優

名作家の輩出によつて、新しい歌舞伎が次ぎ／＼に生み出され、幾變化を來たし今日に及んだ事であらう。

要は、時代をリードするやうなよい芝居をこそ望むので、其形式なんか何でもよい。多種多様變化がする程よいのではなからうか。其には素晴らしい名優や名作者の出現を先づ第一に願ふべきだと思ふ。

此際青年歌舞伎に特に望む事は、世評も勿論考慮すべきであるが、其にとらはれ過ぎて萎縮しないやう、のび／＼と藝の手足を充分延ばして欲しい。其集團の多數が名門の子弟によつて形作られてゐ

るので、精神的にも物質的にも順調である爲め、内面的に豊かである所から、應揚迫らざる一種の品位が、藝の上に醸し出される點、之は大に尊重すべき事と思



## 東劇の青年歌舞伎

ふ。然し一方に他の特種劇團のやうに、血のにじむ刻苦の體驗のない所から、往々眞劍味の缺かれる感がある。此處に深く留意して、此際劇界古來特有の弊風を

自ら率充して撃退し、日本の歌舞伎を活かすも殺すも、己れの掌中にあるを自覺して、日本特有の歌舞伎の爲めに不撓不屈の努力を續けて欲しい。

笹谷蘇水

七月の青年歌舞伎を見られなかつた私は残念でならなかつた。で、八月を期待してゐたのだつた。

とも私達にとつてはさびしい極みだ。

青年歌舞伎の若い人達が、獨よがりの鼻につく芝居を見せつけられるので、何時も反感を持つたり困つたものだと思

いろいろ組上にのせられた青年歌舞伎——然し演劇愛好家の誰でもさうであらうと思ふが、解散はさせたくない。寧ろ大いに助成して立派な後繼者をつくり上げるべきだと思ふ。

乍ら、その癖興行毎に見なければ氣がすまないのも何かの因縁だらうか。

新宿第一劇場が映畫館に變更されたこ

統的な芝居道の習慣を固守して來た結果却てそれが被滅の因を爲したものと思は

れるが、結局時代の動きと共に動かなかつた處に誤算を生じたことになつたと思ふ。襖、障子一枚倒れても即刻其筋を通す青年歌舞伎、弟子番頭四五人を引出す御曹子若旦那方と、日の丸辨當を持つて劇場に通ふ水も洩らさぬチームワークのとれた前進座と比較されたからたまらない。全く前進座の六月興行の素晴らしい舞臺と、興行成績の優れた點は大谷さん

舞臺と、興行成績の優れた點は大谷さん

をして、すっかり満足させてしまつた。

それとこれとを比較された場合、根本的に差異のあるのを認めざるを得ない。

然るに今月の青年歌舞伎は實に見違へる程良心的な舞臺を見せてくれた。全く一人一人の眞剣さを観客に訴へてゐるやうな悲壯な氣さへしたのであつた。出しものもよく揃ひ、倦きさせず、おもしろく見せてくれた。

第一勤皇の家では我當君の權太夫、段四郎君の長男、染五郎君の次男共に熱のあるのが嬉しかった。勘彌君の天誅組首領中山忠光は義經のやうだつたが、心ある人らしくはあつた。

第二が本所狸。段四郎君の輕妙洒落さと、鶴之助、高麗五郎君の達者などこへ竹三郎君の金貨の持味とおかしみ、それらが観客を喜ばした。

第三の俊寛は壓巻だけに期待と不安と

あつたが、案外神妙に内輪に／＼熱演した我當君に今迄にない氣安さを感じた。型もさる事乍ら、より以上臺詞の活殺に心して貰ひたい。「俊寛が乗るは弘誓の船……」と底から絞り出す白に救はれる俊寛よりは寧ろ悲痛な俊寛を認められた。

鶴之助君の成經、氣位あつて宜しい。

成太郎君の康頼は氣品の點で損、訥升君の千鳥初々しく潑刺として、舞臺を明朗にした。殊に泣き落しに色氣のあるのに心惹かれた。段四郎君の瀬尾、堂々たるもの。勘彌君の基康も亦宜しい。

第四が夏妾月佳話。まづ福助君が大人びたこと(勿論役柄もあるが)、肉づきがよくなつたこと、藝の著しい進境を見せたこと、どれもこれも嬉しい限りだ。芳貞の一枚繪にも出た程の美人、下谷仲町の藝者小染、最初の出が羅の艶姿、その水々しさ、これだけの大役をこなすやう

になつた福助君、問題以來僕も心を痛めてゐたのだが、先づ安心したやうな氣がした。六代目の相手役として一本刀土俵入を觀せてくれるのも遠くはあるまい。

鶴之助君の妹藝妓小富、何時も内輪に勤めるこの人に敬服する。

我當君の越前屋、氣の毒な役を頗る神妙にしてゐた。高麗五郎君ののん孝、一番難役をめ立たぬやうによくした。勘彌君は大久保多仲、勘彌君が出るとどの舞臺も明るくなる。

私は一座の諸君に熱と力のこの意氣で大いに進んで貰ひたい。そして心服するに足る指導者を求めることだ。やがては將來の我が歌舞伎界を双肩に荷ふ後繼者であることを忘れずに精進を續けられんことを希望する。



## 映畫の立廻りと劍道

南 町 淑

の様な事が出来るものでも無く、又あまり形の良いものでも無い。尠くとも現在の映畫に於てはである。併し、これも演出の進歩につれて次第に姿を消しつつある。

前書はこのくらゐにして、いよゝゝ本

今、映畫のスターで誰の立廻りが一番所謂劍道型に近くだらうか？——なんて書くと、その道の大家から「劍道と立廻りとは全然別のものである。」と、否定されるかも知れない。もつともなお説であると云へた時代は昔の事で、今日では然うとは云へなくなつてしまつてゐる。無聲時代にはその説も通つたのだが、トーキーと云ふ厄介なもの出現によつて、

聲も音も出す様になると、少し話がこみ入つて来る。

無聲映畫の場合、立廻りの場面に氣合の聲も、劍の音も、又死人のうなり聲も

たゞそれを想像するに過ぎなかつたが、トーキーになつて立廻りの場面に、これ等を脱かしたら、いくら名優が目をむいても、全く氣合のぬけたものになつて、張合ひが無くなつてしまふだらう。それに舊劇の演技も、だん／＼寫實味をおびて來るとなると、歌舞伎の型に基づく立廻りではどうしても、そぐはなくなつて來る。これが映畫の方の演出家、役者に分つて來たのは最近であつて、今でも一遍刀を振れば三四人が一度に倒れたり、歌舞伎できまると云ふ動作等も平氣でやつてゐる人を、しば／＼見るが、事實そ

題に這入ることにするが、私など劍道のケの字を學んだに過ぎないのだが、その淺い經驗の目で眺めて、上手だと思ふ人が三人居る。大河内傳次郎、市川右太衛門、片岡千惠藏のこの三氏で、その外に私は前進座を加へたい。

最初の三人について見ても、それ／＼變つた、種々特徴を持つてゐる。大河内傳次郎のは、武士の立廻りと三尺物の立廻りとを、全然變つた劍法を用ひてを、浪人物の時は又異つた行き方を取つてゐる。書いて見ると「なんだ」と思ふ様なこの思ひ付きが重要な事で、今日何人

の人がこれを實行してゐるだらう？

ある映畫の立廻りの場面で、彼は刀をおさめると左手の指のつけ根に二三度息をふう、とかけたことをおぼえてゐるが、これは非常に行き届いてゐると思つた。私等でも練習をつづけてやると、そこが痛んでまめが出来たり、割れたりする。そこを彼は心得て、ちやんと取入れてゐるのである。

市川右太衛門は今度の「薩摩飛脚」で見ると、その動作には劍道の型と同じ所がたくさんにある。僧四海に扮する羅門が公議の隱密神谷何某に扮する彼と山中で立廻りに、横面を打つたり胴を切つたりする型は、皆劍道の型から取入れたものである。大勢を相手の立廻りでも、彼は一人を切る時も、返す刀でもう一人を切る時も、切つてから刀を引く。引いた刀が思ふ所でびたつと止まる。引いたと

云つても、これは切つたのであつて、そこに正しく區切りをつけてゐることが見えるのも、非常に美しく見られたのである。これを劍道の方では「手をしめる」と云つて、人を切る時最も重要な事とし、これによつてその人の上手下手が分かる。とまで云はれてゐるくらゐである。

片岡千恵藏には前に述べた様な所は持つて無いけれども、この人の立廻りには元氣が満ちあふれてゐる。少しも形にとらはれない。そこに何とも云はれぬ美しさ、力強さを感じさせるのである。

以上は個人の場合だけれど、前進座の様に一座が變つた立廻りの方法を取つてゐる所もある。

「逢魔の辻」の時、長十郎が翫右衛門の眉間を切る所があつたが、切られた翫右衛門は一言「あいた……」と、悲壯な聲をあげた事をおぼえてゐるが、立廻りの時

切られた人間が、こんなにも眞にせまつたゼスチュアールをしたのは、これが恐らく始めてであらう。

その以前「阿部一族」の時、この兩人が井戸の廻りで双方槍を持つて立合ふ場面があつたが、實際かくあつたに違ひない。とうなづかすに充分なものであつた。

勿論これ等の人々の外にも、スター級で、立廻りの上手な人は何人でも居らうし、上手でもスターの仲間入りの出来ない不幸な人も居るだらうから、一口には言へないので、以上に書いたのは畢竟ほんの一例にすぎない。

近頃、各映畫社に劍道部の創立を見る時、今後トーカーと立廻りと劍道とは、より一層複雑な關係を結ぶであらうと思はれるのである。





# 涼み臺

(前號の續き)

|| 訥子と歌六 ||

東竹舎人

をかけてしまつたのです。

——いかに猛優でも麻薬にはかなはんでせう。ハ、ハ、ハ、ハ、。

——彼氏も遂に文字通り眠らされてしまつて、手術は完了したのださうです。

——俺は切腹も落ち入りも實驗したと、後で威張らなかつたでせうか。

——兎に角、名に恥ぢぬ猛優ですが、一面に非常に義理堅い人でした。今の左團次君などもさう言つてゐます。訥子丈と比べたら、左團次君は忤くらゐの年配ですが、それでも座頭はやツぱり座頭だといふ處からでせう。初日などのキマリには、座頭たる左團次君の部屋を先づ第一に訪れて、御祝儀の挨拶を述べたさうです。

——さういふ物堅い役者はだんく、尠くなつて行くのでせうね。

——左様で、樂屋内のさういふ禮儀はだんく、知らぬ間に崩れて行くやうです。

——歌六老の方には何かまだ愉快な話はありませんか。

——あります。舞臺の役者を笑はせて、臺詞が言へぬくらの可笑しな話もあります。が、それらは一寸發表出來かねるものですよ。

——〇〇の伏せ字といふわけですか。

——まアさうです。兎に角さういふ愛嬌が自然と舞臺の役の上にも滲み出て來るのでせうなあ。

——今の吉右衛門にも何處かに軽いユーモアが隠れてゐますね。

——隠れたといへば、お月様も隠れました。私達も、もう切り上げることにしませう。

——なんだか「すしや」のお里のセリフのやうですね。

——×急ぎですかハ、ハ、ハ、

——自腹を切るといふ言葉は

あるが、財布の底をはたくのと違つて、さう簡單に腹が切れるわけのものぢやない。役者は時々、舞臺の上で腹を切る。さういふ自分もこれまで

度々腹を切つてゐるが、本當に腹を切るのは始めてだ。切腹の味……といふのも可笑しいが、それを知るのは今だ、後々の参考には……と訥子丈は思つたのです。

——今が始めの終りならん……ですかね。ハツハツハツハツハツ……

——まあさういつた意氣で麻薬をかけるのを拒んだんで

す。

——盲腸の手術に麻薬をかけるせないといふのですか。成程猛優ですね。

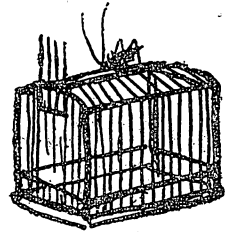
——いや、これから後が猛優の猛優たる處なのですよ。

——で、本當に手術をやつたんですか。

——エ、勿論で、手術をやり出すと、訥子は枕から首を上げて手術の様子を見ようとするのださうです。

——ホウ……恐れ入るなあ。

——醫者の方ではそれが邪魔になつて仕方無いので、當人には知らせずに勝手に麻薬



旅中吟  
ごり汁

中村七三郎

七月四日新潟振出しの地方巡業の途に上る

流れくるものなく梅雨の出水川

汽車奥利根の温泉郷を過ぐ

山の湯や文字書かれたる梅雨の屋根

新潟の近郊龜田に吟行して

夏の爐邊龜田の衆シヨウと笑ひけり

大雨の音に静もる夏爐かな

芻釣瓶はねたる軒の梅雨の宿

傘を張る娘こち向き梅雨小降り



金澤淺野川畔料亭ごりやにて

七月や 鯉汁すゝる旅ごころ  
山清水寛にわかれ 鯉の宿

福井城址の外壕に沿ひて旅舎あり

庭石に花を落せり合歡の宿  
小庇に合歡の花落ちたまりたる

名古屋には八日間滞在、一日水郷長島に吟行す

家あれば洗ひ場があり川とんぼ  
蟬の森うつりて黒き古江かな  
青蘆に船つき入れてあるばかり  
藻疊におはぐる止り飛び交はし

○

灯のうつる鏡を這へり火取蟲

菊 五 郎 秘 話

藤 原 羊 平

祇甲八坂女紅場の教師をし  
てゐる常磐津文糸師匠は、か  
つて尾上某と名乗つて舊劇畑  
の飯を食つた事もある尾上菊  
五郎門下の大部屋だつた。

——話はひとむかしほども  
前の事だが、文糸師匠は歌舞  
伎の大部屋生活から常磐津へ  
轉向した。所謂中年者の自分  
をして今日あらしめた亡き恩  
師の十七回忌を迎へて追善演  
奏會を催すべく内々準備を進  
めてゐた。偶々その演奏會の  
頭に、これもかつての恩師で  
ある六代目が南座へ來演する  
ことになつた。そこで文糸師  
匠は追善演奏會の期日を南座  
の六代目の興行の千秋樂直後  
に於て取極めると共に東京に  
六代目を訪ねて「着流しで結  
構ですから一番だけ踊つて戴

けますまいか」と頼み込んだ  
六代目は別に深く考へる風も  
なく「あゝいゝよ。君の常磐  
津の師匠なら僕だつて知らぬ  
仲ぢやなかつたし、追善とは

符は早くから羽根が生えて飛  
んだ事だらうし、必然的に南  
座の興行の人氣をも煽り立て  
たであらう。

いゝ事だから踊つてあげやう  
何を踊るか、京都の芝居へ行  
くまでに、よく考へて置かう  
よ」といふ快諾に文糸師匠は  
大願成就とばかり欣喜雀躍の  
態で歸洛。「尾上菊五郎丈特  
別出演」のポスターも景氣よ  
く、番組の編成やら切符の前  
賣やら宣傳やらに取掛つた。  
踊りの神様とさへ云はれる六  
代目がたとへ着流しにもせよ  
劇場以外、而も旅先で踊ると  
いふ事は空前だつた。果然祇  
甲を初め花街を中心に評判を  
高めていつた。おそらく指定  
席五圓といふ公會堂のその切

さて南座の初日が明いて、  
文糸師匠は挨拶がてら何を踊  
つて貰へるかを伺ひに樂屋を  
訪問すると、六代目は弟子の  
男女藏と二人で「子寶三番叟」  
を踊るといふはつきりした言  
質を與へた後、「さて川崎（こ  
れは文糸師匠の本姓）、お前も  
俺の芝居の大部屋にころがつ  
てゐた昔と違つて、祇園町の  
お師匠さんと云へば大したも  
のなんだからね、その祇園町  
の師匠がたとへ元の主人にも  
せよ役者に只で踊らせたとお  
つては師匠としてのお前の名  
折でもあり、祇園町の沽券に  
もかゝはらうといふものだ。

この俺に、お禮は出すだらうね」と開き直つての言葉、一々理の當然でもあり、もともと無報酬で出演して貰はうなどとは虫のよい考へを持つてゐたのではないから、「ごもつともでございます。一體どういふ風にお禮をしたらよろしいでせうか、ざつくばらんには仰有つて頂けませんか」と云ふと、「二千圓包んで持つて來な」との要求。翌日文系師匠が現金で二千圓水引を掛けて持つてゆくと「ナニ、二千圓の御禮を持つて來たつて？紙屑や不渡りの手形ぢやあるまいね」開いてみて、「いや正金で二千圓、六代目尾上菊五郎出演料としてたしかに受取りました。流石は祇園の師匠えらいものだ」と居合せた弟

子にそれを樂屋の神棚へ供へさせ、燈明を上げて自ら拜禮して直ぐに下げさせ、紙包みを替へさせると、それに「御供」と書いて「師匠、こりや僅かだが追善のお供へに取つて置いてくんな」とその場で文系師匠へ返して了つた。

話はこれだけである。人によつては此六代目の態度を一種の稚氣と評するかも知れないが、名優の逸話らしい事實談として四年ぶりに九月の南座へ同僚が來演するに當り、思ひ出すまゝに蕪雜な筆をとつてみた。



## 皇軍將士慰問 臨時號

中村扇雀君の主唱に基き、歌舞伎座に「忠臣蔵」の上演を機とし、それを課題として俳優達の撮影せる寫眞を主體とした本誌臨時號を近々發刊の豫定。乞御期待。

南

着 茶

ナンバ駅前南街映劇場北東へ  
電 戎 (6) 一六六四

地方通信

名文月音便葉月

句行脚

北鎌倉 中村七三郎

今回は北陸より東海道巡業にて一昨二十七日夜おそく帰宅いたしました。新潟名古屋その他の地方で「ホトトギス」の同人先輩の接待を受けまして吟行句會などを催されましたが、一回も御大の播磨家さんは出席せず、随つてどんな句がこの巡業で出来たかを私は知りません。その都度大抵小生一人出席して句を作りました。そんな譯で、私は大分句が出来ました。播磨家さんは今どこか不明ですが、大磯の方に見えたら知らせて貰ふ筈

になつてゐますから、會ひました上で近詠を聞かせてもらつてお知らせすることに致しませう。播磨家さんは九、十にかけて九州から満鮮廻りと決定された様子ですが、小生は多分参加せぬことになりませう。(七月二十九日)

九州の大歌舞伎

別府 北村九泉子

初秋九州入りの菊五郎・梅玉一行は先づ博多大博劇場に出演。出し物は南座と同様にて夜討會我(討入より敷皮問答まで)、染分手綱(重ノ井子別れ)所作事(上)

汲くみ(下)うかれ坊主、新作「巷談宵宮雨」、所作事大津繪。こゝを振出しに各地巡業。

續いて羽左衛門、仁左衛門、友右衛門三津五郎、の一行は九月四日下關を振出しに博多、長崎、熊本、小倉を巡業。出し物は太十、三人吉三、石切、腰越の義經、御所五郎藏、踊は三ツ面子守と關三奴、中にも羽左の得意とする御所五郎藏は期待されてゐる。

なほ續いて吉右衛門一座も九州巡業との由。元來九州地方の芝居はまことに寂しく、福岡へは春秋に大物が来て他の土地は一向に揮るはず、殊に當地別府は

駄目。併し此秋は東京大阪の歌舞伎の淋しいのに比して、九州は歌舞伎の大巡禮で好劇家は大喜び、前景氣頗る宜し。

## 伏見澄子と日吉良太郎

横 濱 Y J M 生

帝都を目ざす云はゞその前哨戦といった土地だけに、案外變り種のイカモノもあれば、血みどろの奮闘軍もある。最近の前者には首尾よく淺草入りを成就した女劍劇伏見澄子一座の人氣が、女學生の樂屋這入りで當局を驚かせたりしたもので、後者では折角東寶入りはしたもののその江東樂天地に於ける野心も間もなく破れて、再び舞戻つた第二の故郷に開演中の日吉良太郎一座はハマの水に合つてか、相變らず下層級になか／＼の人氣を擱んでゐる。

## 淡海君

大井町 比古六

波之助(佐々木波之助朗讀黒幕座の主事)の物故で私の唯一無二の趣味生活(脚本朗讀)ともお別れで、全く淋しい生活です。私の本領は大向うで「播磨家アー!!」でせうが、時勢で芝居もつまりません。トロロリとした、淘然となれるやうなのになぶつかりません。現在と昔とは凡そかけ違つて居ります。

今は私も人並みに社會奉仕の抜き差しならぬ忙しきで、戰鬪帽で號令を懸けてゐる時など無意識に島田正吾を氣取つてゐるかも知れません。

淡海氏との一夜にも話題となる材料は尠くなかつた筈ですが、さて書く段になるとペンに乗れません。

その時の一座の藝者にでも聞いて後便といたしませう。併し淡海氏は好い人で、俄然好きになりました。再度の上京

には及ばずながら連中でも作らうかとさへ思つてゐます。若しそちらでお會ひでしたらどうぞ宜しくお傳へ下さい。

白瀧サイダー  
白瀧コーヒー  
元賣發

菊 正 宗  
アサヒビール  
キリンビール  
店 約 特

地番三十四目一筋橋本日區南市阪大  
番二一三四(75)南話電

郎 次 安 松 高

# 東 京 土 産 話

志 賀 廼 家 淡 海

笑の舞臺人が東京土産となれば必ず言葉の間違ひから生じた失敗ですが、私はいつもそんな失敗をしたことがない餘程俺は頭腦明晰だと、實は心密かに誇りとしてゐたものでした。所が今度は先づ第一に東京に着いた日に見事失敗した(見事も可笑しなものです)といふのが、いつもは地の理や行先を知り抜いてゐる番頭が案内に立つてゐたからで、今度は私が案内者で、若い者を連れて廻つたのだから、これは失敗する方が當り前かも知れない。

## 東上第一歩の失敗

東京乗込の私達は先づ品川驛で勢揃ひ、それから本社差廻しの自動車に分乗して、第一に宮城遙拜、次に靖國神社明治神宮參拜、新聞社訪問、最後が松竹本社とプログラム通りをすませ、私は他へ寄り

道する爲タクシーを走らせた行く先は親族で、小石川の江戸川町だが「大曲り」と俗稱で言ふ方が判り易いと聞いてゐたから丸の内のお堀端を過ぎる時「美しいね、立派だねこの莊嚴な空氣に接したら如何な外人もぶつたまげるだらう」と上方辯、江戸辯取交ぜで運チャンに話しかける言葉の續き「大曲りに行くんだよ」と言つたのを、「大廻りで行く」と運チャン早合點。宮城の周圍を克く眺めたいお上りさんと見てとつてか、相當のスピードであつた車が俄にスローになつた。この運チャン氣を利かしてゆる／＼眺めさせてくれるのかと私は心ゆくまで眺めてゐたが、いつまで走つても宮城から離れてゐないので「君々方向が違つてないか」とさくと、「これ位でいいですか」といふので、ハ、ン今更君の聞き違ひだと争つ

各地味淋千類  
海産珍味品加工業  
四季の御突田物  
高級あられ、味付豆  
鮮魚味噌漬粕漬  
味付海苔

卸問屋

## 中外産物商會出張所

高 城 喜 次 郎

大阪北區眞砂町三番  
電話(36)北三九二番

本店  
神戸市兵庫區下澤通二丁目  
電話 湊川三八六三番  
振替 大阪五七九四番

ても仕方がないと、「イヤ結構だつた」と涼しい顔。程無く江戸川の大曲りへ着いたが、この料金驚く勿れ貳圓七拾錢也（ガソリンが値上りしても七八十錢の處）それに不用意にも小錢を持合はさず、參圓渡して「イヤ御苦勞！」腹の中では泣きたい氣持を、ニツコリ笑つて親族の家の門前―變な所にベルが附けられたなと思ひながらジーと押すとハイと答へたその聲が餘りに近い。

### 迷子の巻

外人同士の會話を聞いてると、恐ろしく早口に聞えるが、これと同様で東京の人が上方辯を聞くと早くて判らな

いと云ふ。上方の人に言はせると東京辯は早口で判らないと云ふ。これは言葉が分らず話が通じぬので、感じも興味も湧かないからで、私達は鹿兒島へ行つてもヅウ／＼辯の奥羽へ行つても名古屋へ行つても克く判りませんが、旅に經驗のない書生や番頭が電話に出ると、よく間違へるので困る事が度々あります。

赤坂のさる待合さんから東劇の樂屋へ電話が掛かつたので、番頭が出ると、四谷の檢番前の△△といふ家へ行つて待つてゐるから是非來るやうに、若し差支へがあつても引合せたい人があるから、十分間でもよい、來てほしいとの事、私は先約があるから十分間だけと前以て約束させた。そこで四谷は大木戸へ車を走らせたが、尋ねる家は見付からぬ。あたりをウロ／＼するも見苦しいから檢番に這入つ

て尋ねたがそんな家は無い。荒木町ぢやありませんかとのことにはその荒木町の檢番前に△△といふ待合がありましかと聞いたが誰も知らぬ、時間は刻々に迫る、御本人も待つてゐられるだらうし、私も今一軒約束の所へ行かねばならぬ。ポチ／＼心臓が躍り始める。電話へ出た番頭に今一度聞き直さうと思つても宿には居ない。私はもう取付く術がなくなつた。

所へお座敷歸りか團六といふ幫間が這入つて來て「イヨウ先生ッ、初日は樂屋口まで伺ひましたが、まだ部屋入りしてゐらつしやらないといふので、急ぎましたから失禮して……然し今頃どうなすつた？ お芝居の方は……」と不思議な顔。「イヤ今打出してすぐ來ました」團六師匠時計を見て「成程ね、それにしても……」と愈々妙な顔をする

### 製菓問屋

## 丹陽堂合名會社

大阪東區北町二丁目三七番  
電話(東)五七〇  
振替 阪内一五〇番

森永製菓株式會社  
明治製菓株式會社  
日清製菓株式會社  
三共製菓株式會社  
グリコ株式會社  
立花製菓株式會社  
新高製菓株式會社  
スカウト製菓株式會社  
各製菓會社

特約店

陸海軍省 紡績會社  
鐵道省 電鐵會社  
各購買部及百貨店 御用達

ので、實はこれく〜と一切を打明け、お客様の名を明かした處「そんなら宜しい、あの方のレコが××だから四谷方面へ来て居られるとすると、必ずお達しがあるに違ひない、そのレコのお宅へ電話しては」とのことに、これぞ名案と暗夜に灯火を得た心地、早速に電話すると、その女中さんが出先へ問合せくれ間も無くまた檢番へかかつて来た「○さんは先程から待っていますので、いらつしやるのですよ。お氣の毒にご迷惑でしたね。今車を迎ひにやりますから何處へも行かず其處にちつと待つてゐて下さい。動かないやうにどうぞ、お動きになりますと、またヘンになりますから……」との電話、なんだか親切のやうな、からかはれてゐるやうな甘酢ツばい氣持……

迎ひの車の来るまでにゾロ／＼と妓さん達が這入つて来る。マア！アア！といふことになり、團六師匠が一人々々に紹介したり辯明したり、大いに説明につとめてゐる處へ自動車。後に聞けば件の待合さんは最近出来た家で、女將が大層な芝居好き、二十年からの淡海フアンのお客があり、それを紹介したいばかりに例の○さんに頼んであつたのだとの事、先づ行先明瞭となり、「どうもお邪魔しました」などと涼しい顔、自動車のブウ／＼も氣のせいか元氣よく、荒木町へ出ると角々に何か書いた物を持つて立つてゐる人がある、ふと見ると顔見知りの若い妓が笑ひながらそれを振つてゐる。そして次の曲り角にも……ハ、ン○さんやつたなと思ふ中件の家に車は着く。今まで静まりかへつてゐた二階でワアワアといふ騒ぎに、さては愈々何かあるわいと覺悟の臍をきめて座敷へ這入る、と洋服掛に巻紙を張り付け、墨痕いと鮮やかに「迷子の迷子の淡坊やアー!!」。

敷へ這入る、と洋服掛に巻紙を張り付け、墨痕いと鮮やかに「迷子の迷子の淡坊やアー!!」。

附記。二十年前、丸の内有樂座へ出勤して以來、明治座、第一劇場、淺草御園座(今の松竹座)等前後十回はお目見得して御後援者には多大の御迷惑を願ひ、自分としても勘からぬ犠牲を拂ひ、また家庭劇としても前後二回に多大の犠牲を拂つてゐるが、なか／＼觀客を吸引することは容易ではない。然し今回の東上は豫想以上の成功といつていゝ。たゞ私達が今少し研究せねばならぬのは、大向と立見のお客を溢れさせたいこと、此處に重點を置いて研究し、次の東上に備へたいと思つてゐる。

天婦羅と佛蘭西料理

# 喜久屋食堂

道頓堀式橋北詰南(75)番

番番 八四七二 番番 八三





## 角座舞臺稽古の夕

黙 鐘 一 子

角座の舞臺稽古を見學に行  
く——。樂屋口と向うのお女  
郎屋を見張つてゐるやうな文  
藝部へ通してもらふと、丁度  
若い舞臺監督の星さんが何か  
仕事をしてゐた。

この部屋——といつても名  
ばかりで、田舎の小學校の小  
使部屋よりまたひどいが——  
こゝを通り抜けると、東の棧  
敷裏の中庭——一方は便所、  
一方は水呑み場とおでんやさ  
んのある處へ出ることになる  
——つまり棧敷への近道なの  
で其ドーア口を出ようとする  
と、上草履のまゝ出入りする  
こと堅く無用、必ず下駄を穿  
く事と紙ぎれに書いて足許に

置いてある。衛生上から言つ  
ても尤もなことだが、一々穿  
き替へるのは、頻繁に出入す  
る者には面倒だらうし、穿き  
替へる下駄が無い場合はかな  
り厄介だらうと思はれたので  
そんな事を半分獨り言のやう  
に、半分星さんに話してゐる  
と、ズングリ太つたイガ栗頭

の樂屋番さんがニユツと現は  
れて、元來樂屋に入入りする  
者は、舞臺を通つて棧敷へ出  
るのが本當であること、上草  
履のまゝ棧敷裏を通行するな  
ど以ての外なることを、眼を  
怒らせて滔々と説明するので  
甚だ心臓の強くない私はたゞ  
恐縮してしまつて、樂屋さん

に對して悪意も敵意も無いこ  
とを辯明し、ほうほうの態で  
薄暗い道具裏から電氣室の狭  
い通路を抜けて、やツとこさ  
と東の棧敷へ腰を下ろして、  
ホツと溜息ついた。

稽古は今『雨降り峠』の第  
二幕の一、布引の瀧道の場合  
終つた處ださうで、道具方や  
電氣屋さんが道具轉換で入り  
亂れてゐる。あれだけ大勢の  
人が狭い場所で行き違ひ、擦  
れ違ひしてゐるが、よく行き  
當らぬものだ、やつぱりシヨ  
ウバイだけのことはあると、  
今更のやうに感心する。  
向うの西の棧敷にはまるで  
人影が無く寂寥としてゐるが

こちらの棧敷はそれに引替へ  
賑やかで、殊に下棧敷には男  
女の役者達や、男衆、お弟子  
さん達などがそれぞれ話し合  
つてゐる。上の棧敷には××  
新聞の△△さん、××××の  
△△さんが何か話してゐられ  
るのを知つたので、私もそこ  
へ話しに行く。

道具は至極簡單で、秋の摩  
耶山の一角がもう出来上つて  
ゐる。山上から海を眼下に見  
た景色だ、眞中に美しい女  
乗物が置かれる。もう程なく  
幕明きになりさうな様子だが  
さう素人が思ふやうに容易く  
行かぬものらしく、何かと暇  
どつてゐる。

花道には椅子に腰かけてゐ  
るワイシャツにズボンの鳥江  
さんと、薄い淺黄無地の着物  
に茶がかつた袴を穿いた、後  
茶釜の侍が何かしきりに話し  
てゐる。鳥江さんは今度の脚  
色で演出を兼ねてゐられる

侍は嵐吉(嵐吉三郎)扮するところの秋月某といふ若い強い勤皇攘夷黨の一人であることが分かつた。

處へ衣ずれの音サヤサヤとして紅梅色の着付をした女性がピツタリと寄り添つたのでハツとして見ると、瀧(蓮子)の扮した奥方では無いお部屋様——番附にある土佐守愛妾お藤の方——だ。お藤の方が紅梅の着附とはこれいかにと、つひ無駄が言ひたくなるが、餘程口を慎まぬと今日はノツケから樂屋さんに叱られてゐる——氣の弱い私も少々不愉快だったが、かう若い女優さんにピツタリ肩を並べられると、もうそんな不愉快さなど、知らぬ間に何處かへ飛んでしまつてゐる。

た大きい眼、存外ツンと高い鼻——横顔に見惚れてゐると△△さんがコイツ助べるな男だといふやうな顔をして、ニヤリ／＼笑つてゐる——。瀧君の帯がペシャンコなので注意してやりながら、君も又大分お腹が大きい筈ぢやないのかいとからかつてやると、例の大きな眼で睨む眞似をして何處かへ姿を隠してしまつた。

百舌の聲で舞臺が暗轉から變つたことになる——。瀧君のお藤の方が今は全く舞臺の人として乗物の傍に立つて、海の景色を眺めてゐる。もう私達からは空間的にも時間的にも遠い隔たりの處へ置かれてしまつた人間のやうに想へる——。

美鴈の源兵衛が熊が出たと驚くと、それは傷いた足を引きすつてやつて来る侍で、最前の嵐吉の秋月何某だ。お藤は祇園の藝妓であつた頃、座敷へ呼ばれたことがあるので秋月の顔は見知つてゐる——どころではない、心の中に忘れ得ない人なので、自分の乗物の中に身を忍ばさせ、首尾よく當座の危難を救ひ、到底歩行もおぼつかないので、遠慮するのを無理に再び乗物に乗せるといふわけだが、お藤が秋月を後から抱くやうにして引留める、秋月は傷つく足による／＼と後退さる——この双方のイキがうまく合はず段取りが滑かに行かないので五六度やり直して、どうやらオーライといふことになる。

次は三幕目の芝居茶屋で、お藤と通辯のお春がはからず落ち合ひ、秋月を互に自分の物にしようとして、あられもない喧嘩をやる處。面白さうだが、道具の整ふまでの間を中座へ行つてみようかと思ふ中座でも今日は東西合同青年歌舞伎の舞臺稽古をやつてゐるので……。

そこへ成太郎君が通辯お春の拵へでやつて来た。

この場で落す方の簪を持つて来て見せるやうに男衆に命じたりしてゐる。前髪をお下げに切つた鬘、造花の裝飾りが異國情緒を感じさせる——

ふと舞臺の方を見ると、七分三分に裏向きの横顔を見せてスラリと立つた仇ツばい藝者姿が目についた。唐人お吉のやうな鬘の鬘つきが繪のやうだ。よく見ると今度東京新派から来た若宮里路だ。昔からみると大分肉付きがよくなつた——。

中座へ出かけようと樂屋口に行くと、丁度重役の××さんが中庭から文藝部へ這入つて来た。××さんはスリッパをその儘だつたが、樂屋さんは別に文句は言はなかつた。(八月三十一日)

# 九月の道頓堀 上演の新作

永田衡吉作

## 勤皇の家 (二幕二場)

淵上權太夫(我嘗)は熊野三山の御神酒献進を司る舊家で徳望は近在にも知れ渡つてゐたが、次男清三郎(勤皇)が天忠組に加はつた爲、權太夫もその疑ひを受けて和歌山藩の討伐隊の爲に捕はれた。

自供を強いる拷問が繰返された後、權太夫は銃殺に處せられることに定まつた。その處刑の間際に討伐隊士の一人から權太夫の悴清三郎が天忠組を脱走し、同志を裏切つた爲同志の怒にふれて殺されたといふ報告があるので、それ免じて權太夫は死刑を許されるが、不義不信の子を持つことは彼にとつて死以上の苦

しみであつた。

連綿たる一家の安泰をのみひたすらに祈る長男の貫造(高麗五郎)は父の無事歸宅に喜びもし安心もした。併し死んだと傳へられた清三郎は勤皇の熱情を一身に籠めて生きてゐた。彼は敗戦した味方を苦境から救ふ爲の軍用金調達に父の援助を乞ふべく我家に向つたのであつたが、その途中で本當に討伐隊に内通してゐる天忠組の同士の爲に裏切者の汚名を着せられ、殺害されんとした。

痛手に悩みつゝやうやく我家に辿り着いた清三郎は父に會つて實情を語り軍資金を得

ようとしたが、不義不信の者と思ひ込んでゐる父は彼に會はうともしなかつた。清三郎は詮方なく金を盗まうと決心した。さうした行動が父には愈々卑劣な人間としてのみ映るのであつた。清三郎はその誤解を百方辯じたが、父は耳を傾けない。兄の貫造も清三郎の生きてゐる姿を見て驚き父の止めるのも諸かず、代官所へ訴へに走るのであつた。彼には何よりも家が大切であつたのだ。

清三郎は義學の爲には父さへも犠牲にする覺悟で刃を向けたが、太刀筋優れた父の爲に反つて一刀を浴びせられるが、此時父權太夫の胸中にも「大義親を滅す」の氣魄の烈々たるものが清三郎に宿つてゐるのを感じた。父は改めて軍資金を清三郎に與へて、間道から落してやることにした。折柄貫造を先立て、討伐隊

一群が殺到した。權太夫はその中に躍り込んで片はしから斬つて捨てるが、これを見て驚いたのは貫造で、父は狂氣したのだ。すべては狂人の仕わざだ、一家のお取つぶしは容赦してくれと叫ぶ。父は天朝の御爲には一家枕を並べて死ぬのだと貫造を斬り倒す。かゝる時、颯爽として現はれたのは中山忠光卿(扇雀)を始め天忠組の一隊で、忠光から權太夫に清三郎もその妻お秋(鶴之助)も潔く死を遂げたことが告げられた。權太夫も亦自刃して果てた。

これは作者が左團次の爲に書いた舊作とのことだが今日の時局にも遠ざからぬものだけに一般から受け入れられてゐる。役者も熱心に演じてゐるが歌舞伎の基本的技術から放れ難い人達だけに、此作が一層型に嵌り過ぎ、シベキに成り過ぎて

るる感があるのを遺憾とす

村松 梢風原作  
鳥江 鏡也脚色

## 雨降り

## 峠 (四幕十場)

兵庫開港條約が結ばれ、續いて横濱が開港となつたが未だ攘夷論がやまなかつた安政の頃——横濱の商館に勤めてゐる通辯のお春ミスハルマル

(中村成太郎)は幼い時、出漁中に難船し、アメリカ船に救はれて、永い年月を異國に暮らして生長した。

尊皇攘夷を唱へる緋櫻組はアメリカかぶれしたお春の驕慢さを憎み、外出を狙つて神奈川臺の裏山にある空き寺へ拉致した。一方、美しいお春を賣つて金にしようと思つてゐたスリのお岩(宮村松江)、その情夫赤根三左(中田正造)と黨の首領大橋猛(林清三郎)等は、お春を取戻さうと寺を襲つたが、緋櫻組の黨首秋月大

る。

次郎(嵐吉三郎)に撃退されて了ふ。

大次郎はお春を斬らんとする同志を押留め、諄々として日本精神を説き、日本の刻下の使命を語る。日本人に生れながらアメリカに育つた爲、日本を非文明國とより外知る處の無いお春も、大次郎の熱辯に始めて日本と日本人とに就いて知ることが出来た。のみならずその熱誠を籠めた言動にお春は全く魅了されたのであつた。

外國奉行からお春の探索を命ぜられた與力糟谷某(中山利雄)も乗込んで來たが、早くも大次郎の知る所となり、お春と共に江戸の隠れ家へ落ちのびる。

英國初代公使オールコックは布引の瀧見物にお春を通辯として連れ立つた。緋櫻組の浪士は秋月や鏡然(笈川武夫)を先にして邀撃したが、幕府護衛の鐵炮組の爲に大次郎も負傷し、身を以て逃れたが、追手は間近に迫つてゐた。

丁度摩耶の紅葉見物に登山した水野土佐守の愛妾お藤の方(瀧澤子)に助けられ、その乗物に身を忍ばせて急難を脱することを得た。お藤の方は昔祇園の藝妓で、その當時から大次郎を知り、密かに思ひを寄せてゐたのであつた。

大次郎の傷も癒えて一年の後、水野家出入りの札差三河屋源兵衛(寶川美鷹)の取持ちでお藤の方は戀しい大次郎と中村座の芝居茶屋で會ふことを得たが、偶々見物に來たお春と互に戀を争ふ事になる。大次郎は、自分にはたゞ攘夷あるのみだと二人の女に和解

の握手をさせるのであつた。

緋櫻組では黨首秋月が近頃お春に接近し、攘夷を忘れたかの如きを詰問するが、大次郎は居留地焼拂ひの計畫を打明けるので、一黨は隱家三河屋の寮を引上げる。

お春は自分の戀の悩みを大次郎に洩らすので、大次郎は本當に妻となる望みならば黨の爲にスパイの役目を勤めてくれと頼む。お春は愛する人の爲、故國の爲に通辯の職を棄て、洋行歸りの紳商兵庫屋(山田隆也)の求婚をも卻け、イギリス東洋艦隊司令官クーパーの信頼をも裏切り、軍資金三千兩と重要書類を奪つて神奈川の街道に駕を飛ばす。が、不幸にも、お岩三左に嗅ぎつけられ、三左の手中に陥る。三左は今後の邪魔となるお岩を殺し、お春を我意に従はせんとするが、お春は更に應じない。腹立ちまぎれに鞘

走つた刀が、お春を傷ける。  
三左はお春の得た三千兩を持ち逃げせんとしたが、偶々首領大橋に阻止される。

一方、大次郎は急を聞いて駆けつけ、彼等に悉く天誅を

吉屋 信子 原作  
中井 泰孝 脚色

## 家庭日記

記 (三幕九場)

辻一郎(白河青峰)は喫茶店の女給卯女(栗島すみ子)と、父友衛や中學時代からの學友生方修三等の反對を押し切つて夫婦となり、遠く大連へ出掛けた。それから二年——愛兒鐘吉を連れて二人は再び東京へ歸つた。

一郎が趣味としてやつてゐた寫眞技術が役立つて寫眞工業會社の技術部へ勤めることになつたのである。一郎夫婦は修三の妻品子(瀧蓮子)の世話でその近所へ引移つた。

加へることが出来た。

黎明が漸く日本に訪れた。

お春はこの新しい國土に愛する人の妻となり得たことに満足しつゝ、遠く天國に昇つていつた。

修三は學位をとる爲、結婚後も大學病院の研究室へ通つてゐた。修三の友人久保(村田駿)は銀座の店に診療所と藥品部を開くつもりで修三に相談を持ちかけたが、圖らずも、卯女の口から、新宿で美容院を經營してゐる原紀久枝(若宮里路)、八重(山本かほる)姉妹の適任であるのを聞かされて、改めて美容院と化粧品部とを開くことに決定する。

その紀久枝と修三とは學生時代に關係があつたが、紀久

枝は愛する人の爲に進んで身を退いて了つたのであつた。

過去の罪を償ふ爲にもと修三は件の話を持つて紀久枝の家を訪れた、紀久枝は最初辭退してゐたが、妹にも勧められて遂に銀座への進出を承知した。

或日、一郎の繼母家壽子は一郎夫婦が大連から歸つた事を知つて修三の家を訪れ、一

郎が子供を連れて八王子の家へ、亡くなつた母の墓參を機會に来るやう、卯女には内密で勧めてくれと品子に頼み込んで行つたが、卯女は圖らず此事を勤づいて了つた。

一郎は、両親の心持は分つてゐるが、卯女を僞つてまで實家を訪はうとは思はなかつた。併し品子に勧められて遂に八王子へ行くことにした。

醫師をしてゐる實父友衛は初孫の鐘吉を連れて一郎が歸つて來たのを心から喜んだ。

品子に連れ出された卯女は銀座から戻つて來ると、修三が來て、鐘吉が俄に發病し、一郎と共に泊ることになつたと告げる。愛兒の發病と聞いてヒステリックになつた卯女は、修三や品子が共謀して鐘吉を八王子の實家へ渡したものと推察し、昂奮の餘り修三の過去の秘密——紀久枝との關係を品子に打明けて了ふ。

偶々卯女の家に見豊作(中田正造)とその女房お勝(宮村松江)が訪れる。豊作は卯女の爲に修三の處へ行くが、話はつかぬので卯女は單獨で實家へ鐘吉に會ひに行く。が、手切金で既に絶縁してゐるのだと友衛に一喝されて追返される。手切金を取つたのは見豊作の仕業であつたのだ。

悲歎の極、病となつた卯女は遂に病院の一室で命を終つた。實家では總てを許して待つてゐると告げられたが……。

# 懸賞課題

川柳

(題材隨意)

森 東魚氏選

芝居と關係あるものに限る。  
十句以内。

## 芝居印象記

森 ほのほ選

寫生、感想、劇評、見物記等いづれ  
も可なり。

枚數制限無きも簡潔を尊ぶ。

締切 毎月八日

應募原稿は添附の用紙を用ふるか、  
或は右用紙を原稿へ綴付けて送付の  
こと。

送付先は道頓堀編輯部宛

(應募原稿と朱書すること)

入選の上掲載の秀逸作(或は佳作)に  
は、何等かの方法にて感謝の意を表  
す。

## 投稿

(はがきにても  
封書にても  
開き封にても)

この優に

この役を

演劇、映畫、レヴューにわたり、こ  
の優にこの役を演らせてみたいとお  
思ひなさることはありませんか？

この脚本を

この芝居に

新舊を論ぜず、主題、思想、様式、  
演出、演技等の上から是非とも舞臺  
に上演してみたいと思ひになるも  
のはありませんか？

## 幕間

本誌始め劇團、劇場、出演者等への  
注意、注文、批判、希望等を遠慮無  
く述べて頂きたい！ 幕間の廊下で  
氣樂にお話し下さるつもりで……。

掲載の分に對し、或時に、或機會に  
何等かの方法で感謝の意を表したい  
と思ひます。

## 次號十一月號豫告

大阪の俳優と

新聞小説

伊原青々園先生の特に本誌の爲に寄  
せられし貴重文獻！

岡田八千代女史の隨筆

秋の朝、秋の夕、爽涼の氣と共に讀  
者のふところへ……。いとまさやかに……。

詩 芝居七興

人情詩人平山蘆江氏の近詠！淡々た  
る流の底に熱き情熱の泉はひそかに  
湧く！

事變後と美術家

芝居

柳川春葉氏門下にして美術界に筆を  
執り來れる春鈴、原田信造氏の異色  
ある寄稿！ その他、明朗輕快の隨  
筆等數十篇！ 新秋の好伴侶！

應募原稿用紙(九・十月)  
合併號附錄

住所

氏名

# 南地ホニル

繁華街に近く、交通至便  
閑雅な和洋室！  
◇モダン階上浴室新設◇

— 宿 —  
— 一 半 —  
— 二 圓 —  
— 三 圓 —  
額半憩

南地戎橋電停前  
電話南四一四・四四一

## 福田眞店

南區笠屋町  
電南二一五九



# 編輯後記

▽盛夏號に次いで新秋爽涼號を机邊におくる。從來遅れがちの發刊を取戻すに力めてゐるもの、いろ／＼の事情から豫定が裏切られる。然し號を追ふに従ひ一日も早く諸彦にまみえるやうにしたい。

▽歌舞伎劇の檢討は吸江高安老博士、新史劇の先覺山崎紫紅氏、東京都屈指の劇通家坂本氏、關西に於ける權威ある劇評家高谷氏の高説を蒐録するを得た。斯界の人々に裨益するところ甚大であるのを信じる。茲に諸家に對して深く感謝の意を表する。

▽はがき隨筆と地方通信は本誌の新特輯。青年歌舞伎、新國劇の諸優を始め、各地各氏の執筆に興趣混々として泉の如く湧く。今後も本誌の名物として續けて行きたい。

▽青年歌舞伎を評された蘇水氏は映畫界の古參、演劇にも造詣が深い。六代目秘話を洩らされた羊平氏は演藝専門家、いづれも繁忙な仕事の寸暇を見て執筆されたもの御好意に深く深く感銘してゐる。

▽吉右衛門、七三郎兩優が毎月の「ホトトギス」雜詠欄を賑はしてゐるのは周知のこと、特に寄せられた最近詠に、讀者は秋水の如き明かるさ、のどけさを感じられるであらう。

▽學生劍士南町君の「立廻りと劍道」、東竹老主の「涼み臺」、默鐘子の「舞臺稽古の夕」、淡海丈の失敗談、すべて特ダネの尤なるもの、若しそれ女流作家氣賀君子女史の参加に至つては正に之れ紅一點、更に一段の明色在り矣。  
伊原青々園氏を始め平山蘆江氏、原田春鈴氏、大友柳太郎氏等の玉稿を次號に譲つたことを平に御詫びいたしておく。

結核に於ける花柳病科

藤原醫院

★ 戎橋筋ノ側西入 ★ 電話 二六〇六 六六番

結核に於ける花柳病科

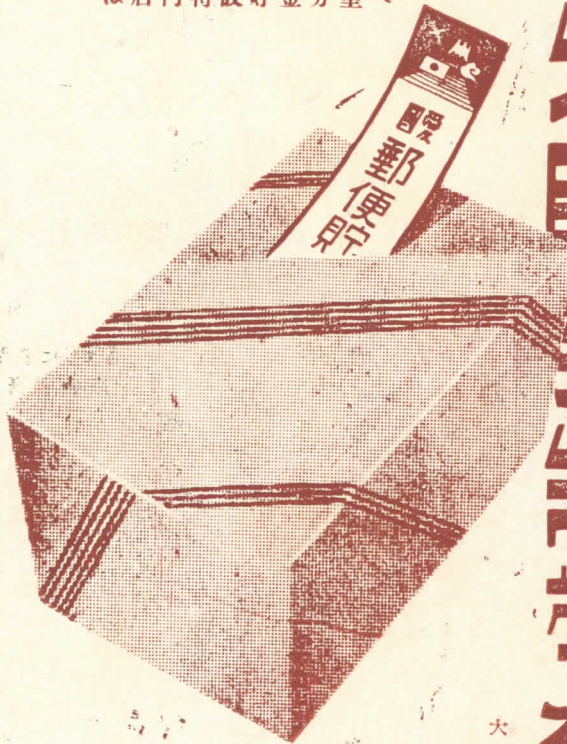
<p>定價一部 金貳拾五錢 (送料壹錢)</p> <p>半年 六冊 金壹圓四拾錢 一年十二冊 金貳圓八拾錢 (送料共)</p>	<p>▽振替を御利用の場合には 東京 四〇五七七番 天野米太郎(御拂込の事)</p> <p>▽廣告取扱 大阪電報通信社 北區中之島二丁目</p>	<p>▽廣告の御用は「電通」又は當編輯部へ御申込の事</p> <p>昭和十三年十月一日印刷 昭和十三年十月五日發行</p> <p>大阪市南區久左衛門町八番地 松竹株式會社大阪支店內</p> <p>發行所 鳥江 鏡也 編輯人 京都市中京區御池堀川東入 印刷所 マサズミ印刷所</p>	<p>大阪市南區久左衛門町八番地 松竹株式會社大阪支店內</p> <p>發行所 道頓堀編輯部</p>
---	--	--	--





明 14 年  
1 月 31 日 マテ

買上五圓毎に拾錢の  
貯金票を呈上お預入れ  
は店内特設貯金分室へ



愛國御買物貯金  
制實

そごう独自の……

大  
阪

そごう

心  
願

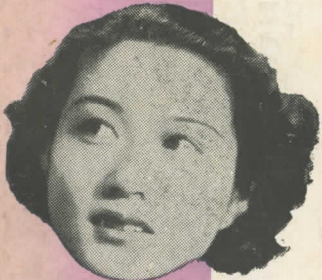
昭和十三年十月十五日第三種郵便特認可  
 昭和十三年十月一日印刷（毎月一回）  
 昭和十三年十月十五日發行（十五日發行）

第四百四十三號

定價 金二十五錢



るす扮に郎一  
謙 原上



るす扮に女卯  
子通 野桑



るす扮に子重八  
子光 浦三

上原謙・佐分利信・桑野通子・高杉早苗・三宅邦子・三浦光子主演

吉川満子・坂本 武  
藤野秀夫・水島亮太郎  
高松築子 助演  
九月廿九日  
大 公 開

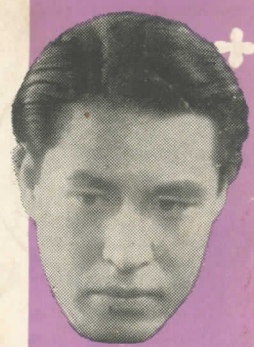
家庭日記



松竹大船の映画化!!

吉屋信子女史原作（大毎・東日連載）

池田忠雄脚色・清水宏作品



るす扮に三修  
信 利分佐



るす扮に子品  
苗早 杉高



るす扮に枝久紀  
子邦 宅三